

朝倉とともに 2018.12.8

防災士 朝倉災害支援ボランティア活動センター

代表 天野 時生 副代表 橋本 康弘

第31号

常に想いを寄せ 持ち続ける

今回はチェーンソーを使用せず、鋸で竹を一本一本伐採していった。太いものは直径10cmを超え、長いものは10mを超えるものもあり、家屋等を傷つけないよう周囲に注意しながらの作業となった。また、法面で足場も悪く、踏ん張りが効かず、作業は難航した。



雑木の枝葉も伐採したが、かろうじて手の届くところまでで、高所は次回へ継続作業とした。それでも覆いかぶさっていた竹や枝葉が撤去され、見晴らしも良くなり、とても明るくなった。寒い中、2時間ほどの作業だったがしっかり汗をかいていた。



支援活動継続

2018年も終わろうとしている。今後、新たな災害がないことを願うが我々は常に心と支援体制の準備を怠らないよう肝に銘じ、防災士として地域の安全・安心のためスキルアップを図ることを心に誓った。



12月8日(土)那珂川市埋金区において先月から引き続きの支援作業を行った。今回で4回目となるこの日は家屋に倒れ掛かった竹と雑木の撤去作業となった。

九州北部豪雨で亡くなられた方へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに早期の復旧・復興を祈念します。

暖冬 天候不順 真冬日の中で

12月に入っても暖かな日が続き、数日前は20度を超える記録的な暖冬の気候の中、この日は打って変って5度前後の真冬日となった。コンディションを整えるのが難しい状況であったが作業服の上に防寒着を着込んで臨んだ。

8月にも竹林の一部伐採を行ったが、今回は家屋に倒れ掛かる大きな竹と残っていた散在する竹を伐採した。屋根を覆う竹や木の枝が家屋を傷つけるだけでなく、日照にも影響を与えたり、土砂崩れの危険もある。



▲竹や雑木が覆いかぶさっている